

IT資産に関わる情報を可視化し、IT投資の価値を 最大化する「Unicenter Asset Intelligence r11」

CAは、2月号で紹介したEIM（エンタープライズ・インフラストラクチャ・マネジメント）コンセプトに基づく製品戦略を展開しているが、その第一弾として、EIMの中核となるITリソース・マネジメント・ソリューション関連の5製品を市場投入した。このうち、IT資産に関わるあらゆる情報を統合的に可視化するためのインテリジェントな分析ツールが「Unicenter Asset Intelligence r11」である。このツールを活用することで、企業はIT投資の価値の最大化を実現することが可能だ。

EIM 構想の第一弾製品を発表

コンピュータ・アソシエイツ（CA）は2月3日、同社が提唱するEIM（エンタープライズ・インフラストラクチャ・マネジメント）構想の第一弾製品として、EIMの中核となるITリソース・マネジメント・ソリューション関連5製品の日本語版、

- ・ Unicenter Asset Management r4 SP1 Japanese (UAM)
- ・ Unicenter Software Delivery r4 SP1 Japanese (USD)
- ・ Unicenter Remote Control r6 SP1 Japanese (URC)
- ・ Unicenter Asset Intelligence r11 Japanese (UAI)
- ・ Unicenter Desktop DNA r11 Japanese (UDDNA)

を発表した。このうち、国内初の提供となるUAI、UDDNAは、EIM構想に基づく新しいUnicenter r11シリーズに連なる製品で、日米同時リリースとなる。また、UAM、USD、URCは、既存製品の日本語版であるが、今後Unicenter r11シリーズとして、順次市場投入されることとなっている。

ITコスト/リスクを徹底して「可視化」 するUnicenter Asset Intelligence

企業が所有するIT資産の実態や、その使用状況を正確に把握することは、増大し続けるITコストの最適化、セキュリティ強化による企業リスクの低減を図るために極めて重要だ。このための革新的なITマネジメントを実現するのがCAのEIMである。EIMは、IT運用管理のベストプラクティスとして注目を集めるITIL（インフォメーション・テクノロジー・インフラストラクチャ・ライブラリ）に準拠しつつ、資産情報（人、モノ、金）とポリシーを管理するMDB（マネジメント・データベース）を核に、各種製品群と管理ソリューションを強調動作させてトータルなITマネジメントを実現するものだ。

今回提供される5製品の内、EIMの重要なコンセプトであるIT管理に関わるあらゆる情報を徹底して「可視化（視覚化）」するインテリジェンス層の具体的製品が、「Unicenter Asset Intelligence r11 Japanese」である。UAIは、ネットワーク上のハード/ソフトなど企業のIT資産に関して、バージョン

やライセンス情報、利用状況、脆弱性に至るまでの詳細な情報を総合的に管理する製品である。

UAIは、UAMにより収集された詳細なITリソースの情報を、例えば組織、地域、アプリケーション、ベンダといった属性や、脆弱性の存在するPC、ディスク容量といった、多方面から分析することにより、IT資産の状態を特定の側面から可視化することを可能にしている。また、ITリソースの主要パフォーマンス指標（KPI）に基づく分析レポートは、企業の経営層に戦略的IT投資判断のための有益な情報を提供すると同時に、コンプライアンス、ITIL等への準拠状況を管理することにより、企業リスクの低減を可能にしている。

「わが国では、まだまだ企業の経営層と情報システム部門の担当者との間に考え方のギャップがあり、必ずしも戦略的なIT投資が行われているとはいえません。このギャップを埋めるためには、企業のIT資産の実態や使用状況を明確化することが重要です。これにかかる人的稼働を解消すると同時に、経営層の意思決定に役立つように可視化することによって、企業のIT投資の価値を

最大化しようというのがUnicenter Asset Intelligence r11 Japaneseの狙いです。」(コンピュータ・アソシエイツ(株) プロダクトマーケティング部シニアマーケティングマネージャー 赤間敏彦氏)

ポータル画面によりIT投資の価値を最大化する「可視化」した情報を提供

EIMの中核をなすMDBには、運用、ストレージ、セキュリティ、ライフサイクルという4つのソリューションに関連する情報も蓄積されている。したがって、ハードウェアやソフトウェアの種類だけでなく、例えばパフォーマンスや使用率、さらにはそのマシンにはどのようなパッチが当てられているか、セキュリティポリシーに則っているかなど、広範囲の情報がITの資産データに結びつけられてMDBの中で管理されている。UAIは、MDBで管理された幅広いデータに基づいて、IT資産に関するすべての情報を、様々な視点からリアルタイムに分析し、「可視化」して提供する。通常ならデータの収集に数日、分析にさらに数日かかる作業を、UAIならほんの数分で完了するという。

UAIでは、具体的なユーザー・インタフェースとして、ポータルビューを提供している。この画面は、アセット、ハードウェア、ソフトウェア、リスクといったタブで切替可能な各種ビューで構成されており、ユーザーのレベルや用途に合わせて必要な情報を効果的に表示できる。また、企業の要求に合わせて新たな視



図1 企業内のソフトウェア資産の一覧表示画面例

点を追加するなど柔軟にカスタマイズすることも可能である。基本的な分析機能の提供に加え、ユーザーが管理者用画面を使って、MDBに蓄積された情報を活用した独自の分析機能を追加することも可能にしている。

ポータルビューの一例を図1に示すが、このようにデータベース、Webアプリケーション、オープンソースソフトウェアなど、企業内のソフトウェア資産を簡単に一覧可能だ。しかも、組織別、場所別、アプリケーションの 카테고리別に、利用率や稼働状況などが一目でわかるようになっている。例えば、リスクビューによって、会社がサポートしていないOSが何台あるのか、アドウェアやスパイウェアに侵入されたPCが何台あるのか、セキュリティ上の脆弱性が放置されたままのPCがどれくらいあるのかといったことが一目で把握できるようになっている。しかも、部署ごとの対応状況が分か

るため、会社全体のセキュリティ意識の向上にも役立てることが可能だ。

以下に、UAIの主な特長を整理して示す。

幅広い視点で、ビジネス上の戦略的な意思決定が可能になる。

短時間で価値を得られるベストプラクティスのビューを用意。

主要アプリケーション、データベース等に対するベンダー別/カテゴリ別ポートがあらかじめ設定されている。

ITリソースのプランニングとマネジメントを簡単に直感的にする機能を提供。

Webベースのインタフェースで、管理者はUAIの運用方法を簡単に設定、変更することができる。

●お問い合わせ先●

コンピュータ・アソシエイツ(株)
CAジャパン・ダイレクト
TEL : 0120-702-600
JapanDirect@ca.com
<http://www.caj.co.jp>